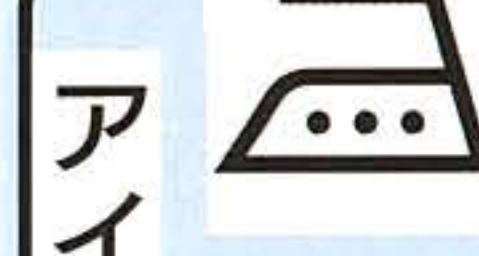
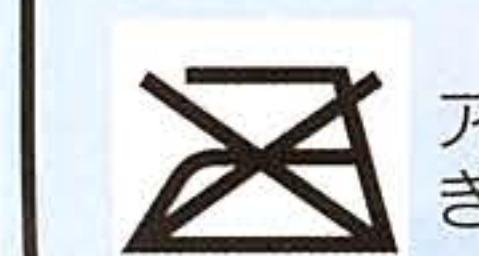
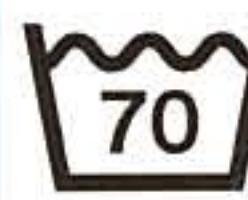
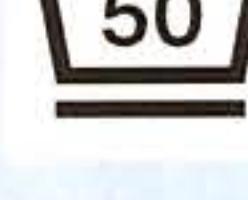


# 見てみよう洗濯表示

	底面温度210°Cを限度としてアイロン仕上げ処理ができる。
	底面温度160°Cを限度としてアイロン仕上げ処理ができる。
	底面温度120°Cを限度としてアイロン仕上げ処理ができる。
	底面温度120°Cを限度としてスチームなしでアイロン仕上げ処理ができる。
	アイロン仕上げ処理はできない
	洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。高温乾燥:排気温度の上限は最高80°C
	洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。低温乾燥:排気温度の上限は最高60°C
	洗濯処理後のタンブル乾燥処理はできない。
	ドライクリーニング処理ができない。
	パークロロエチレン又はジブトキシメタン若しくは記号Fの欄に規定の溶剤でのドライクリーニング処理ができる。通常の処理
	石油系溶剤(蒸留温度又はデカメチルペンタシクロシロキサンでのドライクリーニング処理ができる。通常の処理
	ウェットクリーニング処理ができる。
	ウェットクリーニング処理ができる。非常に弱い処理

暖かくなったら、洗濯物をお外で干すという方が多いと思います。そこで今回は、2024年8月に改正された洗濯表示を掲載します。2024年8月の改正以降に販売された服には新しい表示のルールに従った表示に変わっています。前回2016年の改正から変わったこととして、新しい記号に「液温30°Cでの手洗い処理」の記号と「低温(120°Cまで)でスチームなしのアイロン処理」の記号が追加されました。また、参考情報として、記号だけでは伝えられない参考情報が、簡単な言葉で記号の近くに記載される場合もあります。買った服を長くきれいに使い続けるために洗濯表示をしっかり確認してお洗濯しましょう。

<b>洗濯</b>	 液温は、40°Cを限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる。	 液温は、40°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。	 液温は、95°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
<b>漂白</b>	 塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる。	 液温は、40°Cを限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる。	 液温は、70°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
<b>漂白</b>	 酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。	 液温は、30°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。	 液温は、60°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
<b>漂白</b>	 漂白処理はできない。	 液温は、30°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる。	 液温は、60°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる。
<b>干し方</b>	 平干し乾燥がよい	 つり干し乾燥がよい	 日陰での平干し乾燥がよい
<b>干し方</b>	 日陰でのつり干し乾燥がよい	 ぬれ平干し乾燥がよい	 日陰でのぬれ平干し乾燥がよい
<b>干し方</b>	 ぬれ平干し乾燥がよい	 ぬれつり干し乾燥がよい	 日陰でのぬれつり干し乾燥がよい

洗濯表示によって温度の上限が決まるので、家庭でタンブルー乾燥をさせる際や、カーペットやカーテンなど大型の洗濯をコインランドリーで行うという場合もタンブルー乾燥のマークを気付けてみてください。

タングラー乾燥について

反面、型崩れしやすい服、縮み易い服、ボタンやビーズ、スパンコールなどの付属品が傷つきやすい服、風合いが損なわれる服があります。タングラー乾燥は、回転と熱と風で短時間に乾燥させる事ができます。

乾燥機の中では、洗濯物を回転させながら温風で乾燥させる方法です。コインランドリーでは、タングラー乾燥機が一般的です。ご家庭では、洗濯とタンブルー乾燥機能が一体となったタテ型洗濯機やタンブルー乾燥機として独立しているタイプのものがあります。

コープ東北商品本部

家庭用のドラム式洗濯機の乾燥を使いたいのですが、カタログの衣類や布団マークがないので、購入するのをためらってしまいます。出来れば衣類や布団マークがないのに、「タンブルー乾燥禁止」のマークなどに、そのようなマークを付けていただければ有難いです。

## 洗濯表示に関する「ひとこと」